

氏名	遠藤 伸太郎
学位の種類	博士（コミュニティ福祉学）
報告番号	甲第373号
学位授与年月日	2014年 3月31日
学位授与の要件	学位規則（昭和28年4月1日文部省令第9号） 第4条第1項該当
学位論文題目	大学生スポーツ競技者のSOCの強化に関する考察 —ストレス体験における対処の視点から—
審査委員	（主査）大石 和男 森本 佳樹 安松 幹展 安川 通雄（中央大学工学部教授）

## I. 論文の内容の要旨

### (1) 論文の構成

本論文は以下の 6 章で構成され、介入による大学生競技者の成熟性を示す指標である SOC (Sense of Coherence) の強化策を検討するために、彼らの競技生活における挫折などのストレス体験による SOC の変化について検討することを目的とした。第 1 章、2 章では、スポーツ心理学の領域における SOC に関する先行研究をまとめつつ、課題を提示し、本研究における目的を記述した。第 3 章以降ではまず、大学生において SOC を測定する尺度を用いることの信頼性と妥当性、それに成熟性を測定する指標として SOC が有用であるのかについて、生理的指標との関連も含めて検討した (第 3 章: 研究 1, 2)。次に、わが国において研究の蓄積がほとんどない競技者の SOC について様々な変数 (例えば、競技の継続年数、競技レベルなど) を設定し、その関連について量的、質的に検討し、今後考慮すべき変数について知見を得ることとした (第 4 章: 研究 3 ~7)。そして、これらの結果をもとに、ストレス体験を経て SOC がどのように変化するかについてインタビュー調査を用いた質的調査を行い (第 5 章: 研究 8)、先行研究と各研究で得られた知見を踏まえた SOC の強化を目指した介入方法を検討した (第 6 章)。

### (2) 論文の内容要旨

本論文では、Antonovsky によって体系化された個人の成熟性を示す指標である SOC に注目し、将来的な SOC の強化に向けた示唆を得るために、大学生競技者のストレス体験による SOC の変化について検討した。まず、SOC の測定についての問題と SOC が成熟性の指標として有用であることを明らかにした。次に大学生競技者を対象に、彼らの SOC について様々な変数を設定しその関連を検討した結果、長期にわたり継続すること、競技者として取り組むこと、そして競技者としての心理的な成長が SOC と正の関連を有していることが示された。次に、競技者が経験する困難をストレス体験として扱い、質的側面からその体験と SOC との関連を検討した結果、ストレス体験への対処が SOC に関連することが示唆された。さらに詳細に分析を行った結果、周囲の者からの支えや立場の変化を基盤としたストレス体験への積極的、回避的な対処が SOC の強化に関連していることが示唆された。最後に、以上の結果を踏まえ、今後 SOC の低い競技者の SOC を強化するための介入方法について、特に周囲の者の支えに着目して検討し、サポートされている意識を向上させるなど、介入に向けた 4 つの軸を設定した。

## Ⅱ. 論文審査の結果の要旨

### (1) 論文の特徴

本論文の特徴として以下の 3 点が挙げられた。まず、競技スポーツのもつ否定的な側面についてネガティブな指標の低減・緩和に焦点が当てられて研究がこれまで行われてきた中、ポジティブ心理学のアプローチによるポジティブな指標である SOC を用いた検討を行い、その重要性を明らかにしたことが挙げられた。

次に、ストレス体験というネガティブな出来事を乗り越えることは個人の日常生活など様々な側面に影響すると考えられるが、数少ない先行研究でも、競技者としての心理的成熟モデルが限定的に用いられているだけである。こうした中、本論文では、SOC を用いることでこの点について検討し、その可能性を見出したことが特徴として挙げられた。

さらに、競技者の SOC についての研究は、わが国はもちろんのこと海外においてもその蓄積がほとんどない。本論文では海外の先行研究を踏まえたうえで、様々な変数を用いて SOC との関連について検討をしており、研究の蓄積という観点からも海外に先駆けて行われているという特徴を有していることが挙げられた。

### (2) 論文の評価

本論文に関しては、博士論文に相応しく論理的に構成され、先行研究も十分に考証がなされており、研究目的の設定の仕方も適切であった。

また、量的研究と質的研究を用いて実証的に研究が行われたことも評価された。特に本論文では質的研究を用いて、競技者のストレス体験による SOC の変化について検討しているが、その結果は、量的調査だけではネガティブな結果として解釈される可能性がある回避的な対処を、ポジティブに評価しており意義深いと考えられた。

加えて、競技者の SOC の強化においては、ソーシャルサポートと時間の流れが重要である点、そしてその状況の変化に応じた対処の仕方を身につけていくという介入に向けたポイントを明らかにし、サポートされている意識を向上させるなど、SOC の低い競技者に対する強化を意図した軸を設定している点も評価された。

さらに、本論文で得られた結果を様々な領域、特にコミュニティ福祉における現場での活用の糸口となることを示唆したことから、結果の他の領域への援用可能性という観点からも非常に貴重な研究であると評価された。